



▲民生委員全員が集まる研修会

皆さんは民生委員がどのようなことをしている人なのか知っていますか。「聞いたことはあるけどよく知らない」と思う人も多いのではないのでしょうか。私たちが普段、民生委員と呼んでいるかたがたは「民生委員・児童委員」として地域の推薦を受けて、厚生労働大臣から委嘱されている人たちです。つまり、高齢者と子どもの両方に関する相談を受けているのです。子育てや介護で悩んでいる人、障がいを持っている人、高齢で1人暮らしの人などが相談できる、身近な相談相手なのです。

民生委員の活動は幅広い

また、民生委員・児童委員の中には子どもの支援に特化した主任児童委員が中学校区ごとに委嘱されています。しかし、民生委員は専門的な資格を持っているわけはありません。そのため、研修などを通して、市役所などの福祉サービスや制度を学習しています。住民から相談を受けた場合は話を聞き、場合によっては専門的な窓口につなぐことが民生委員の役割です。

無償で活動している民生委員

「民生委員はお金をもらって活動している」と思っていますか。交通費や通信費などの活動費は決められた額で支給されていますが、それ以外は無償で活動しています。民生委員は特別職の地方公務員という区分なので「毎月給与をもらっている」と誤解されていることが多いそうです。

現在、全国には約23万人いて、市内にはおおよそ自治会ごとに86人の民生委員がいます。

小学生が一日民生委員を体験

私の知人で若木台5区の民生



今回は広報ボランティアの櫻井さんが民生委員・児童委員(以下民生委員)の活動を取材しました。

私たちの身近に いつも民生委員

▲神興東小学校児童による1日民生委員体験活動

委員でもある田島悦子さんが「小学生が1日民生委員体験活動をするよ」と教えてくれたので、私も同行させてもらいました。

1日民生委員になったのは神興東小学校の4年生。子どもたちは事前に民生委員の活動について学習し、理解を深めました。そして活動当日。1班5、6人で、各担当地区の民生委員の引率のもと、小学校を出発しました。道中、笑顔で田島さんと話していた子どもたちでしたが、訪問先の家の前に着くと一気に緊張した様子になりました。

訪問先では玄関で話をします。民生委員は特別な事情がない限り、活動中に訪問先の家へ上がってはいけません。子どもたちは「ご飯はちゃんと食べていますか」「運動はしていますか」などと順々に質問し、訪問先の人はそれに笑顔で答えていました。

この日は3軒を訪問し、子どもたちは少しずつ慣れていった様子でした。帰り道、子どもたちにも感想を聞いてみると「いろいろな話ができてうれしかった。優しい人ばかりだった」と話してくれました。



▲民生委員活動を行った児童と田島さん

子どもの頃から福祉を理解できる機会を

「小学生の1日民生委員体験活動は県内でも唯一の、珍しい活動です」と話してくれたのは、民生委員・児童委員協議会の会長で東福岡11区を担当する宮尾敏彦さん。小中学校の校長をしていたときに「学校の中で完結するような福祉活動よりも、学校から出向いた方が、より福祉に対する理解や協力が子どもたちに身に付くのではないか」と考えたそうです。宮尾さんは「この活動が、小学校から中学校、高校、大学までに広がっていくことが夢」と今後の展望を話してくれました。

街角記者

櫻井紀子



広報ボランティア歴11年。福津ブランド選定委員などを経験。情報誌などで市内の観光情報の執筆も行っていきます。

「街角記者が行く」とは、広報ボランティアが読者の皆さんを代表して記者となり、街角に出て、市や関連団体の取り組みを取材するコーナーです。記者の目線で、ときには歯に衣着せぬ物言いで関係者を取材し、皆さんの疑問に答えていきます。

街角記者が行く

～広報ボランティアの取材報告～



100年前から続く民生委員制度

ベテラン民生委員に聞いた

市内には民生委員になって今年で21年目になる人がいます。潮うしほハルミさんです。若木台3区の約280世帯への訪問や見守りなどの活動を行っています。潮さんは、民生委員として地区を見守ってきた中で、だんだんと高齢化していくのを肌で感じていました。この地区は1月末現在、高齢化率が43・8%と高齢世帯が多くなっています。「地区内で困りごとを助ける支



▲サポートを行う潮さんと町田さん

援が必要だ」と潮さんは考えました。そして自治会やさまざまな活動をしている人たちに相談してみたところ「向こう三軒両隣。みんなで助け合っていきなさいね」と賛同してくれました。

活動が発展して地域の困りごと支援に

自治会の協力のもと、潮さんの声掛けで「若木台3区サポートの会」が立ち上がり「私にも何か手伝えることがあれば」とたくさんの協力者が集まりました。現在、50人ほどのサポ



▲サポートの会が中学生と一緒にいった防災訓練

ターが地区内で困っている人の外出支援などを行っています。取材した日は、手足が不自由な女性からの依頼で、美容院までの送迎を支援していました。潮さんがその女性の介助を行い、サポートの会の運営事務局メンバーの町田健二さんが運転を担当。利用者は支援内容に応じた運営費のみ負担します。サポートメンバーは全員ボランティアです。

20年以上の民生委員活動で培った、地区内の住民にとって必要な支援と、その協力体制の仕組みは、市内外からも注目されてきており、度々視察があるなど広がりがつづいています。

まずは一歩踏み出さないと声をあげると

「何でも一人で抱え込む必要はない」と潮さんは言います。これは民生委員になった人と、何か悩みを抱えている人に向けた言葉です。「サポートの会を立ち上げることができたのも、私一人ではどうしようもできな

変化する民生委員の役割

「市内では高齢者が高齢者の面倒を見ている『老老介護』が非常に多くなっている」と話すのは会長の宮尾さん。「特に一人暮らしの高齢者で、ひきこもり状態の人がとても増えている」とも話します。民生委員の報告からも、この10年でひきこもり状態の人が目に見えて増えた実感があるとのこと。地域の高齢化が進むと、民生委員だけでは手が届かない場面も増えていきます。これからは民生委員をはじめ、市や関係機関、自治会だけが担っていた役

割を、地域一体となって取り組んでいく必要があると話します。

民生委員を応援してほしい

宮尾さんは「民生委員になってくれた人には本当に感謝している」と話します。そして「民生委員になって困ったことや不安なことがあれば、先輩民生委員が支援します」と続けます。「民生委員になったが、だまされた」「こんなはずじゃなかった」と任期の3年を経ずに辞めてしまう人がいるそうです。宮尾さんは「まずは市民の皆さんに民生委員の活動を理解してもらいたい」と話します。



▲民生委員を12年務めている宮尾会長

「民生委員は特別職の地方公務員という地位なので、給料ももらっているなど間違った認識をしている人もいます」と苦労を話します。「ぜひ住んでいる地

区の民生委員を応援してほしい」と思いを語ってくれました。

民生委員は身近な相談相手

民生委員制度は、大正6年の「済世顧問制度」が始まりだそう。私は100年前から続く民生委員活動を、取材前は詳しく知りませんでした。取材を通して、相談を受けることはもちろんのこと、子どもたちに民生委員のことを理解してもらおうと活動したり、中には自治会と協力して地区のニーズにあった生活支援をしたりするなど、地域に密着した素晴らしい活動をしていることを知りました。

教えて民生委員さん

Q 民生委員は困りごとを何でも解決してくれるの？

A 私たちは皆さんに寄り添って相談に乗ります。問題の解決はできないかもしれませんが、市や関係機関の制度、サービスなどの情報を提供し、解決のお手伝いをします。

Q 児童扶養手当の申請するために民生委員の署名が必要だと言われました。民生委員は信用できるの？

A 市では児童扶養手当などの申請の際に、民生委員の署名を必須としている場合があります。私たちには守秘義務が課せられており、活動で知り得た情報を漏らすことはありません。

Q 私の住んでいる地区の民生委員を知りたいけど、どこに聞けばいいの？

A 市福祉課にお問い合わせください。担当地区の民生委員を紹介します。

問い合わせ 市福祉課 ☎43・8188

昨年5月以降に変わった民生委員を紹介します



衣笠 明子さん (宮司1・善福区)



小田 純子さん (大和2区)

街角記者が行く

～広報ボランティアの取材報告～



依頼を受け、サポートの会が除草作業▶

